

日より浅草三社権現宮焼 ○三月七日より奥州折津系を流るる虚空蔵弁法

より念仏堂より一閑焼 奥州念仏の産土の三子日一閑焼場一也。此所焼村二男三男  
焼村より容貌よく清く日尾前山先生品生深と編輯せり。三月一

大坂天徳山の 又世の物語 ○三月十日より谷中妙福寺日親上人閑焼 ○三月より永代より

勢洲園府村府南より本号阿弥陀如来焼 ○三月より丸山真善より一松系

谷妙法より祖師宮焼 ○三月より浅草より権内淡島明神宮焼 ○四月朔日より

永代より一葛西半田福右神宮焼 ○四月より浅草より町蓮光寺より遠良

貴名山妙日より祖師宮焼 ○四月四谷伊賀町續新親町を出来て四谷新堀江

町と号し ○四月八日より大日板妙豆院大日如来宮焼 ○六月朔日より浅草西福

より一甲丹焼慈佛宮焼 ○六月十五日より回向院より一浅草新地如来閑焼

○六月十七日より十四日の乃平本東大寺勸進不より二月堂親世より閑焼 〆り

○六月十九日夜黙の毛雨と降る ○七月麻疹流行 〆豊前本字佐八幡宮并小  
深村より本所迄の男兒二人

と程を海の際に出立せし兩國小舟と見え物と云 〆今年四月より日く雨降り又曇り五月  
見ハ十一才程寿と号し一舟ハ八丈程美と号し

月小より霖雨止む時より一菜蔬生る事より一浅草新地諸人少く看せ物何より

多し一これより一物より一為國権時納涼より一萩莫より七月十八日二百十日小島

且より大風為家屋を傷損は大河通出水あり是より米價一時小高揚り又

のより八月朔日先小倍せる大嵐より烈しく屋宇を破り樹木を折り怪

我人傷むるありをまゝお湯と号し一〆米穀飢乏しく一人困苦甚し七月より

貧民は救とて米粉をあり又十月小より一筋遠橋外より和泉橋連のる

河岸通より小救の小屋と号し一〆食物をある 此等水油拂底あり  
小麦の油や一箇ひを俵に

○九月十九日築地沖堂天鐘成今日供養焼始より 留家の娘  
焼始む 貴城群集夥し

○十月廿二日浅草より輪花焼七 此間より又火難焼中一この時時時  
此辺より雨降る報せり利益ありと云ふ ○十一月十二日

夜四半時神田鷄町小横町より火 新焼  
二丁 ○十二月廿九日夜根津門前茶屋所

燒亡○江戸買物獨案内三冊持仍

天保八年丁酉

帆艘せんせんのりき 去年より賊民一匹救せ下しある事云之○二月狂言師文かぐや舎解かぎ

子丸卒 久保氏 ○赤川清心あかがわの身延山祖師開帳 ○八月薩摩燦燦さつま精舎しやうが始む

魚鱒うまと号以 ○一度いちど焼仍る ○八月十日日始より大風向人家を損下樹木を折怪我

人多く夕方ふいとて終る ○九月神田明神附糸の内橋本町より目より籠細工

の身物みものと出流 身物の趣向しゆかうを志すと橋の裏の人形にんがた之敷より身置衣みおき若狭わかさ木きふいとの

○十月寺分てらわき種新規吹立しゆしんきなる ○十月十九日曉六時吉原江戸町二丁目より出火

一系焼亡 坂宅山の宿花川戸赤川八幡はちまん本もとあり ○五志別ごしべつ新規吹立しんきなる 上月朔日より

○十二月九日夕八時之地震 ○日光山志五巻しご持仍 植田十右衛門 関八州路程全圖せきはちしゅう

仍 酒井喜照著

同 九年戊戌

四月間

正月十五日秋入庁岡寛光おかひろみつ卒 秋周補之権太郎号都子園 ○二月廿二日明六半の根降の

お茶屋町より赤火宮永町七軒町外近辺を院焼亡 ○三月廿より半島自給

明神開帳 ○月十一日より新寺町五泉より中後番取妙具の祖師開帳

○十七日より回向院くわういん之井の沢弁さへ天あま重かさね帳 境内より人形師泉目吉の細工を志す

○月ト以市谷茶末稲荷明神あまのてら開帳 林納の違ふ物ありてお供も異なる ○二月佐藤藤浦持規

○四月十七日大風午の刻色小田系町武丁自湯登より共火一始はじ小風かりこかぜり

南風ふりり伊世町船戸物町本町石町本根町辺より今川橋通り西ハ鎌倉向

岸小川町武家方面神田町一系焼亡空所くわの辺ハ夜成刻之ハ焼る月水つきみづより終る

○閏四月四日夜麹町出火 ○五月廿一日より永代より武洲多摩郡長瀬郷玉

川明神開帳 ○同廿五日より回向院より紀州加田淡島明神開帳 跡まで紙難の形にて

神納物ありて者汝等様 ○酒入味 妙りり 一板市中不備り酒を製て集ふ家多し

八月廿五日大風也地虫 ○十月日本橋去年二月大坂より奉りり何某が一件

後名拾札豆つ ○十月九日十日陽高天満宮地主戸隠明社祭出りぬり物

ありて人多く死に ○十一月八日夜水谷町より出火佃高延焼亡翌日已刻終る

○同九日夜市谷左内坂出火 ○東都歳事記五卷梓仍 月岑著 長谷川雲且兼雪提画

○江戸方南註解一卷梓行 二遷著

天保十年己亥

正月十一日雲三尺守経續る ○三月朔日より飛戸天満宮閑帳

○三月二日西南大風土砂を飛之夕七時小石川若原谷より出火駒込馬士前小川の

武家方組中江町並とも以器くまに焼之 ○三月廿日より青山善光より

一光之尊孫院如來閑帳 ○月十一日より千餘谷仙壽院鬼子母社閑帳

○六月十七日より日向院より川傍平間寺弘法大師閑帳

○相明社の為糸方天閑帳 ○四月為國徳所管清成時龜井町の

住人形師末若石舟 生妻とも小渡り物と云也

○六月十七日より麻布廣尾天現寺毘沙門天閑帳 ○神田明社社の為

居建政 ○六月末上野中堂の後三抱むりの大木風もあたり折る

○十二月朔日大風昼時色江谷恭宗より出火青山より延焼する

○十二月廿六日言田宮定院より出火言田辺町屋敷焼穴八幡宮の樓門焼失

○同廿七日夜長服橋内秋元彦は藩邸より出火

同 十一年庚子

二月廿八日より五子橋若原町閑帳 ○三月朔日より元坂田町世継橋若原町社

二月廿八日より五子橋若原町閑帳 ○三月朔日より元坂田町世継橋若原町社

二月廿八日より五子橋若原町閑帳 ○三月朔日より元坂田町世継橋若原町社

二月廿八日より五子橋若原町閑帳 ○三月朔日より元坂田町世継橋若原町社

二月廿八日より五子橋若原町閑帳 ○三月朔日より元坂田町世継橋若原町社

岡焼 ○三月三日より小石川牛天神岡焼 ○同六日より浅草寺町心堂より

下総大野法蓮より祖師宗焼 ○月十三日より浅草寺泉寺より佐渡源宗根本

寺祖師宗焼 ○四月より板津権現山内約辺龍前町外宗焼 ○谷中妙福

寺祖師宗焼 ○四月朔日より芝神宮内より天海宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より芝神宮内より

後多田若守も大師再婚 ○浅草新町五泉寺より □明市村村師再婚

○五月十八日屋代輪池為卒 名証賢務入家書齋圖書よ 名有り白山若師傳も小卒す ○五月より坊間の法度中

古小復すべき旨を令せり 此の傳多り ○五月廿九日俳人大梅居士卒 こに異り

七十才如小山人ありて梅外又克徒訪を若く一後道彦公は入て能堪嗜り所為翁の富高小高居  
爾多助少の一家衰て後元大町小居一房母と号して菓子と舞ふ孤山刺唐木の早の師も中修  
長慶小若師傳川若若る小碑あり門人卓即建と  
辞世七十や何ゆ突の中流枯尾也

○六月より浅草念佛堂より公呂根荒  
人神岡焼 境内小大坂細工人折文二の住 此戸物細工の二色の由 ○九月村田の村祭礼の時今年より附系十六系

と改る二系系和と改るを々々和より三系と改る 確基地走り確基地の 三系より奥物止む 浅草系系改る也

始 浅草田東町清水三系を和む弘化は系也 ○あまの曲の万葉打まきぬい 函がく 横とく  
子子本新元町源流とれをつとむ あまの曲の万葉打まきぬい 水の上まきを風車

帆燈あり又梅の曲の三重八重あや梅すくひ打板二の曲 あまの曲の万葉打まきぬい 水の上まきを風車

ぐんざんありの舟 扇童子遊以遊子のり あまの曲の万葉打まきぬい 水の上まきを風車

○九月为国橋為廣小路一紀村若山の生れより齒力鬼を獲るといふものつとせ地  
小物器の茶碗や嚙刺り或は袴の袴にせよふとく中傳書物物やとくして

自立小振ふ又浅草寺の奥山一狗馬とあつけく曲るせ あまの曲の万葉打まきぬい 水の上まきを風車

るつとせ物も出り ○十月七日曉七半時堺町より出火為産芝居海江六折折元大

坂町新和泉町新茶物町中外科焼 ○十月晦日夜上野大佛堂より出火佛

像焼損ト堂宇焼亡八回十四年所再建あり 意海為堂上人建立六地蔵の一柱 長祿勤井の像も焼て再建あり

○十一月菱垣也和仲与十組商人中除具加金上納免たり 意海為堂上人建立六地蔵の一柱 長祿勤井の像も焼て再建あり

止あり ○十二月十七日大雲三丈程移る浅草寺年の市備人秘一

天保十二年壬寅

○新曆頒行 天保壬寅 天保壬寅 ○正月廿七日大風の方源川山幸所流花登 酒 様より失火を避

新焼あり ○二月廿五日より湯島天満宮開帳 ○去年十月堺町草葺町の芝居

焼失後為産并採人形産浅草山の宿小出産下屋鋪の地引移る さき吉の

る命有り一が當二月三日同ふとく勢地やト一あり 四月廿八日より町名を藤若町と 号し木根町の芝居も遊るあり

引うす... 三町分... 十方... 榎子... ざら... 山... 子...

三月朔日より水代より... 親世...

成田山不動尊開帳... 三月七日西大風...

石川小日向... 延慶院... 焼亡...

三月十日... 元町尾上町焼亡...

三月十八日... 官府より命せられて...

女... 八月... 深川仲町... 新地...

古石場... 越中... 山本町... 徳打場...

吉岡町... 吉田町... 鐘撞堂... 三田三角... 麻布市...

市谷おぐ谷... 根津... 谷中... 音羽町

敷ヶ橋... 赤坂... 田所... 音羽町

三月廿二日... 大風... 柳橋...

中野宝仙... 不動尊開帳... 四月朔日...

六月より... 田向院... 南都法隆寺... 聖徳太子...

六月十五日... 山王... 礼佛...

六月大佛... 舟町牛頭天... 出立...

七月十九日... 戲作者... 柳亭高谷... 各種...

八月... 榎若所... 榎若所... 榎若所...

町目中村... 二丁目市村... 榎若所...

○十月琉球公使歸 正使浦添王子 副使座喜見親方之世茂、朱敷山、高橋宗一

杜、むらたのむらた、むらたのむらた、むらたのむらた、むらたのむらた、むらたのむらた、むらたのむらた

ね、うをうを、うをうを、うをうを、うをうを、うをうを、うをうを、うをうを、うをうを、うをうを

○町中勅語の神佛別拂 幸沼町親世より上野大仏堂より葛原湯不動寺の奉祈除

○南船人不知火諸右衛門横綱免許 ○幸冬、本境町五丁目、向原橋権之助芝居

○二月廿七日 大雨雷鳴あり

○二月廿六日 六月才名宗秀者岳一陽巻あり

○九月廿八日 丑人長谷川法橋雲具卒

天保十四年癸卯 九月間

○二月九日 地震 用水桶のふところ、程あり

○三月廿六日 大風、豊前巨根田右左衛門町より出火、此辺町に於て焼く

○四月廿七日 書 家巻、菱湖、一号弘永

○五月市井居住の巫覡修驗、くく、浅草、測量所の根

○六月二日夜、大雷 ○九月湯島聖堂所著、徳成就

○九月十一日夜、二十名燈三丁目より出火、後座町より外に於て焼く

○九月下谷、終雲寺上野山、王山の麓、小五、今の家、様々あり

○九月、後若町三丁目、河原崎権、之助、芝居、初島、初

○十月八日、神田、秋若町、出火 ○十一月廿六日夜、湯島、五丁目、

○十二月廿一日、画、英一、陸、卒、午後二、本、様

○十二月廿七日夜、西風、五時、以、銀、作

○十二月廿七日夜、西風、五時、以、銀、作

○十二月廿七日夜、西風、五時、以、銀、作

○十二月廿七日夜、西風、五時、以、銀、作

橋内より出火五郎を湯町より多町白魚や、北川井屋町弓町の辺一系尾張町より本橋町西門前の橋武家より追振座町本橋本町の岸を介敷を焼亡廿八日於東風又怒り投寄座町本橋町北雲町山王町丸後町出雲町の辺於院夕七の時迄燃る。○古金銀並歩判式朱銀並朱銀未通用を傳らる。

此年間記事

天保七八年の以より日本橋四日市箱橋宿明林系結あつたりとて形勢をこむる者隆盛を疑ふ群集し又文政の以より四谷新宿の山正文院小安だる所の大拿衣婆(口中の病を病と行くと云語の者なり)が赤米の今よりこり殊盛よりり隆盛を祈り日米百慶系の輩も。○雜司が合法明る塔頭毎年十月合式の勝物止む。○神社佛閣の富興り文政中殊不盛なりとて數十を存し及ひしり天保の末より止む。○因細村は梅園を撰(枚百株を栽す)ねふまを定(毎

美遊記多し 1000の号成 ○獨撰美天竺牡丹ヲキサといふ事ある 獨撰美天竺牡丹ヲキサといふ事ある 獨撰美天竺牡丹ヲキサといふ事ある

手では枝をれ即時不意を奪れ合致の 藝茶の會行なる ○浮世繪師國芳が草の 狂画一立舟廣重の山水錦繪行る ○現在の文人墨客諸藝人又法售物も成

南力小なり組甲乙を記せし物なる ○六字南女右衛門左門よりころぶ流を

と吸る女をまけられて場を擡ぐる能く和を和と和るもあつ婦女子のあふりたる義

者去後の淨瑠璃をころける要又要婦をこころを和を和と和るもあつ婦女子のあふりたる義

をいそびて容貌の美悪を論らるがやうてこれと極せられし此輩のつらさなり

○横橋の深物なる ○近世文藝の士殊不意名流達士も隨て和るはとや

しされど現存の輩は懐りてら小徳さだ ○人情本と唱へる男女の私情淫奔

のさだをのころる低枝多判りけるが天保以来勢化る ○近頃月琴を彈を

さぶの事 ○皇初嘗と弄むのいしり下りむを極るに近年殊不意なり



養育も次第なるといふの毎年正月二月は香茂洞ふとあり初下の香盛  
兼店ホ小舎くく香盛の美悪を論一風流の名を説くを以て其日と号し  
るの在経好ありて天下才と稱す三笠山と号するの是又其日と号し  
其まを淡一巻を著し畜育の法を解嘗の福妻くく巻く

○寒暖計と号し四時を暖と量るの番初よりとる兼人持信りの居あを  
本邦にて製し始るるよし○深川仲町香盛の傍小舎一室を毀て町屋と爲

弘化元年甲辰 十二月十三日改元

二月より牛の所前王子権現開帳止む ○淡草子町本香盛より上孫必藤

系妙光祖師開帳 ○中延八幡宮開帳 ○飛戸天満宮開帳 ○妻小夏小野

お園橋西廣小路小太る辰辰を撰し約中一竹作治下谷の位 ありふ妻の曲とせん

マイくくを交て見せりとのひえ柏山の如これ小種ひく淡草お位と奥山松の如しり  
約中一竹作の題向小くくひ約中一竹作の如しり

四月五日夜九時小  
石川下宿坂町より火火にて約中土物店近敷焼幅三長十三町  
程あり ○肥前平戸夏大男

生月縣を焼つとりむね撲取来る弟の六七五寺堂廿二六堂  
一尺八寸今年十八才十八人かといふ ○五月五日お園橋

西廣小路芝居小屋崩して即死二人怪人救ふ前後健の齋  
一尺といふ ○七月九日香盛

小田原町一丁目より火火伊勢町御所堂町敷院夜九時燃る ○七月廿四日

曉八時田新町湯屋より火火く元大坂町長谷川町延吉湯町元濱町油町を焼

町富澤町に寄近敷院朝五時以焼る ○七月廿八日師田喜菴護物卒本寺寺宮居  
後香盛をいふ

○越後の香男女の俳儒不踊りやをくせ向お園不許く看せ物といひ ○十月より果鴨

深井兼の造り物再び始る文化よりこの香檀のありて造物に始るより今年果鴨ありて美感院  
の會式の飾り物として兼祖の難のさる兼古遺物の辨を兼香盛之造

りより始り兼兼や毎兼の造り物とありて法入るせり聖巳年より白山の御返極楽谷中ふりて造極本

造りぬ兼手でもさきひて造りぬ九三時形又なるり香盛の足物日毎不詳集し終年く造りし

兼水の今ふりて ○十月十七日より王子橋新町神開帳 ○兼師の画工岸約が男岸良江

少くふりて

戸小来り浅草親善堂（揚香の額を掲る）○今年長壽の人水口壽山（百才） 末吉石舟（百才） 花井白豊（九十才） 大岡雲峰（八十才） 前山松尾（八十才）

弘化二年乙巳

正月廿四日水風砂石を飛込置八時之青山燈を承續二軒所武家地より出火一々一時小焼ひろがり或飛火して麻布三軒家一本松を居坂辺六本木龍土市並所橋田町永坂辺廣尾白金魚籃親善大信子の辺二本榎伊豆子猿町言鶴兵衛町小焼亡く海多あまる夜ふ入狸穴三回の新細町の辺焼亡成下刻落る武家寺社救と知れぬ町救百廿六番町焼死怪家人或ハ海辺の者前後の火ふ宅れ海中不入溺れ死とるりのを合せて幾百人といふ事を知れぬ赤羽橋の側より救の小舟を建て救焼の負民を育せり。（一夜何れの家よりかぬれ出らん荒蕪正人辺の中を往く其度備内一途入るを某臣伯某父子二人おて仕留り又火事の時白金堂町二丁目禅宗西懸寺の裏つ小焼る時の人越師の草堂明山と諱字にて出づる扇類火中より救る昭和九年外火の火るふ是れ終りたり今年門焼着る類のく防まう然るがとハ瑞雲寺長福寺麻布氷川社言鶴兵衛堂

稲荷社象坐る如来（電） ○二月雲巖高より藤立化成る後町登を建る富徳町と号し（電） 有あり残りり

格の ○三月廿七日曉七時半時新原去子續富松町より出火久石並町豊島町火和町江川町橋本町辺小焼る町塩町油町田原町堀田町新林町より長谷川町より砂町辺より十九町の敷焼より七時半ごろより終火は

○當年閑懐ハ二月九日より牛所前王子権現（去る跡） 同日牛島蓮花寺弘法大師（日教）

二月廿五日より井の沢毎々天同廿八日より目黒不動寺三月三日より川口善光寺如来（むらさきり） 今年奉堂の下を焼て戒壇寺とて（同五日より浅草寺町藤宗と兼師如東門九日より古妻森寺） 北門方深一畑一坂格をうける

妻権現門十五日より橋上る芙蓉例年より天同廿日より川口錫杖寺天満宮地蔵寺四月朔日より芝林明宮内条より天同日より津川河崎条より天同日より品川海晏寺より天鏡院親善堂誅院如来四月より出村本條鬼子母神五月廿五日より葛西柴又村帝釈天七月朔日より愛宕山内条より天（山の下園山堂） 右何れも白坊